

令和 8 年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

香芝市教育委員会事務局
教育部学校教育課学校支援室

1 調査の目的

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、及び分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善などに役立てるため、実施されるものです。

調査結果からは、児童生徒の各教科の領域ごとの学習状況、学習に対する興味及び関心、授業の理解度などが把握できます。結果を踏まえて、各学校では児童生徒の全般的な学習状況の改善などに努めています。

2 調査の概要

(1) 調査実施日

令和 8 年 4 月 2 0 日（月）から同年 5 月 2 9 日（金）まで

(2) 調査対象

市内 1 0 小学校 第 6 学年（受検者数 7 3 6 名）

市内 4 中学校 第 3 学年（受検者数 5 6 2 名）

(3) 調査内容

ア 教科調査

小学校 国語科及び算数科

中学校 国語科、数学科及び英語科（英語科のみ C B T（Computer Based Testing）調査を導入）

イ 質問調査（児童生徒及び学校）

オンラインによる回答方式で実施

※ 調査問題や質問調査の詳細については、以下の U R L から、国立教育政策研究所 W e b ページを御覧ください。

<https://www.nier.go.jp/26chousa/26chousa.html>

3 教科調査結果の概要

平成 2 9 年度から、国から提供される各都道府県別及び各市町村別の平均正答率が整数値となったため、奈良県と香芝市の平均正答率は、整数値で示しています。

(1) 小学校

教科	香芝市	奈良県（公立）	全国（公立）
国語科	8.4 /14	7.9 /14	7.9 /14
	64 %	61 %	60.9 %
算数科	9.4 /16	9.0 /16	9.0 /16
	59 %	56 %	56.4 %

（上段：平均正答数/設問数 下段：平均正答率）

(2) 中学校

教科	香芝市	奈良県（公立）	全国（公立）
国語科	9.6 /14	9.2 /14	9.6 /14
	64 %	61 %	63.9 %
数学科	9.7 /15	8.9 /15	9.1 /15
	60 %	56 %	57.0 %
英語科	508	496	499

（上段：平均正答数/設問数 下段：平均正答率 英語科は I R T スコアによる公表）

※ I R T（Item Response Theory：項目反応理論）は、個々の問題の難易度と、それに対する児童生徒の解答状況から、各児童生徒の学力（能力）をより正確に推定し、同時に各問題の難易度も統計的に測定するための理論と方法です。

※ I R T スコアは、I R T に基づいて算出される受検者の学力を示す点数です。難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。全国学力・学習状況調査の I R T スコアは、500 を標準とした得点で表されます。

4 教科調査結果から見える課題と指導のポイント

(1) 国語科

ア 課題

（ア）小学校

目的に応じて、資料や情報を引用した上で自分の考えが伝わるように書く思考・判断を問う問題に課題が見られました。

（イ）中学校

内容を理解した上で自分の考えを書く思考・判断を問う問題に課題が見られました。

イ 指導のポイント

授業の中で、文書などを引用して、自分の考えが伝わるように文書を書く経験を今まで以上にすること及び伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させることが重要です。

(2) 算数及び数学科

ア 課題

（ア）小学校

基礎的な内容である立方体の体積の求め方についての理解を問う問題及び問題の解き方やその理由を説明する思考・判断を問う記述問題に課題が見られました。

（イ）中学校

日常生活の事象を考察する場面において、データを基に理由を考え説明する思考・判断を問う記述問題に課題が見られました。

イ 指導のポイント

基本的な公式の理解を、体験を伴って行うこと及び授業の中でどのように考えたのか説明することを今まで以上に行うことが重要です。

(3) 英語科 ※中学校のみ

ア 課題

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文書を書く思考・判断・表現を問う問題に課題が見られました。

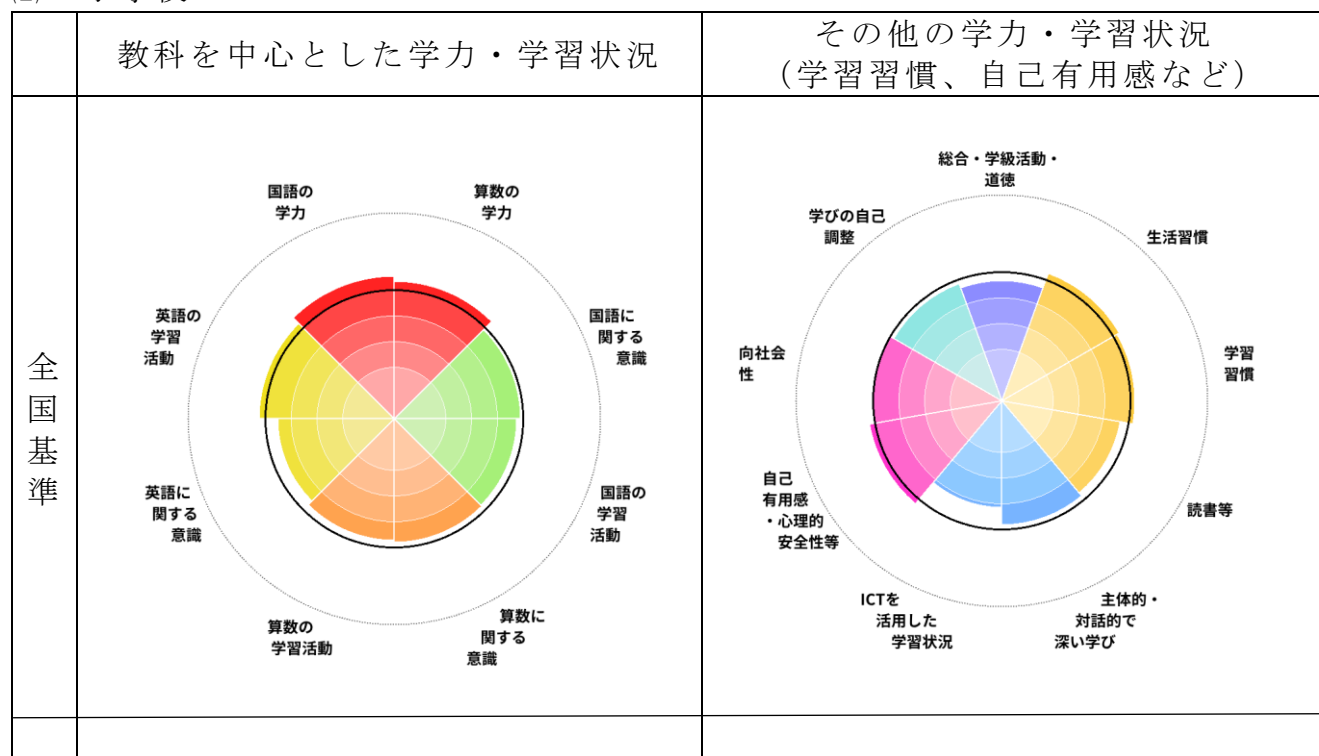
イ 指導のポイント

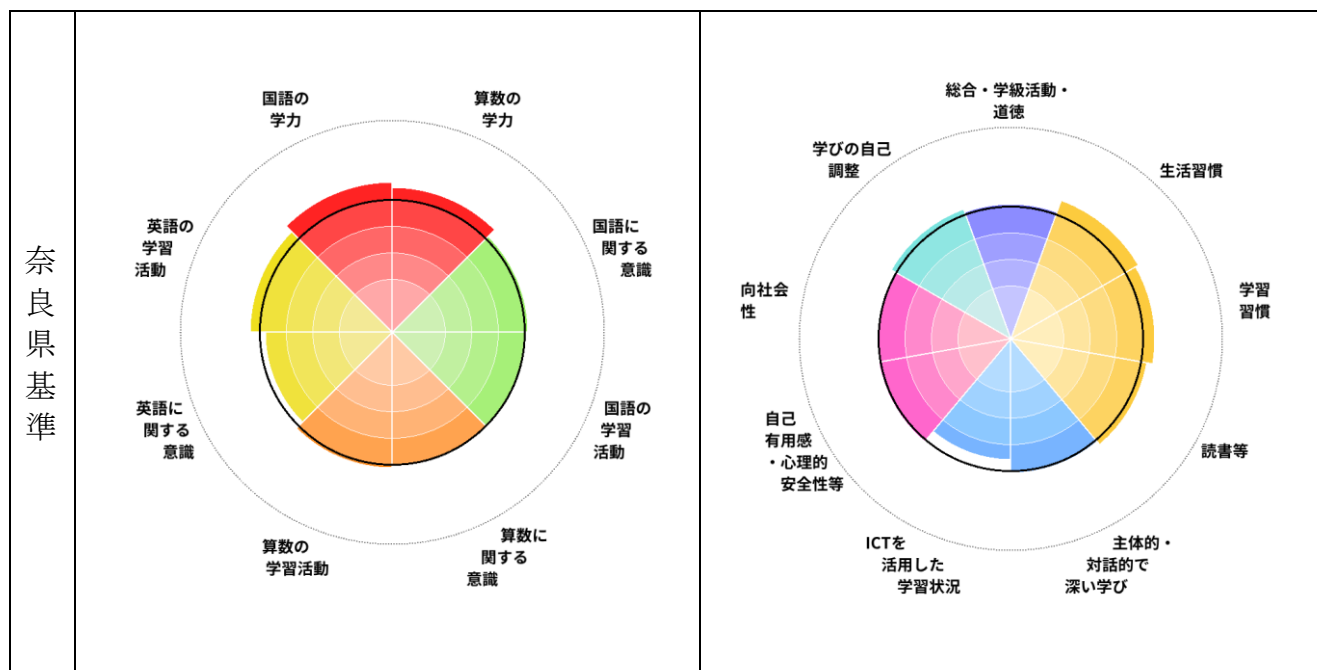
文章構成を意識しながら、全体を通して一貫性のある文章を書くこと及びよりよく読み手に伝わることを意識しながら、自分の言いたいことにふさわしい表現形式を工夫して書き表すことを授業の中で意識させることが重要です。

5 調査結果チャートから見える学力・学習状況

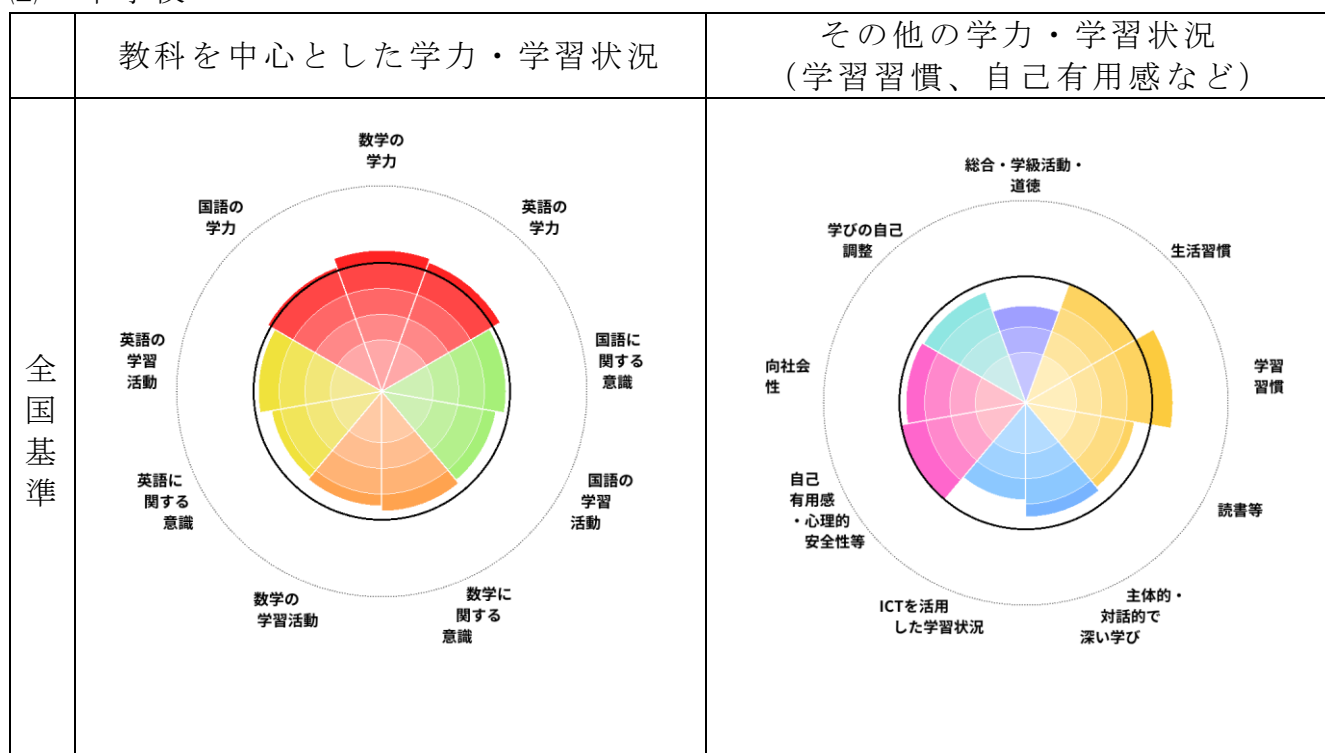
次の調査結果チャートは、香芝市の結果を全国及び奈良県と比較したものです。児童生徒の学力や学習状況を多角的に分析することで、学力向上に向けた取組や授業改善、学校運営の改善に係る計画や具体的な方策の検討に活用することができます。

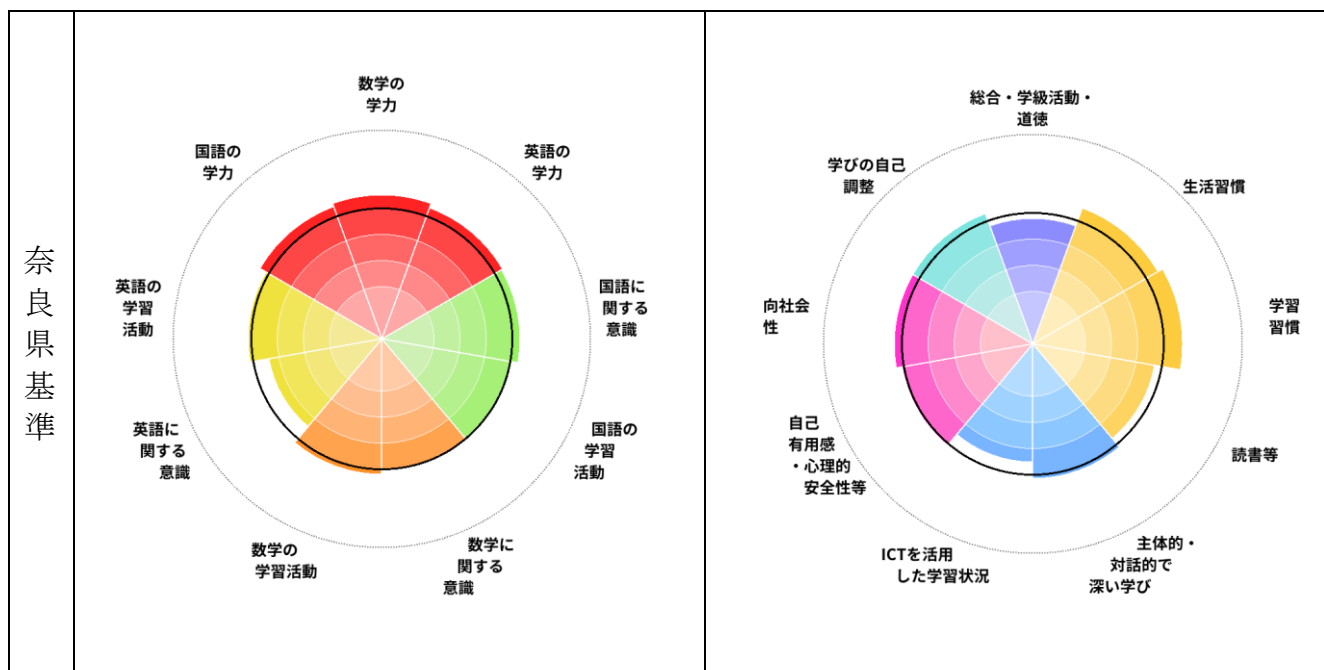
(1) 小学校





(2) 中学校





6 今後の指導改善等に向けた方向性・具体的手立て

主体的・対話的で深い学びを実現できるような授業改善と環境整備で「学ぶ楽しさ」と「分かる喜び」を実感できる授業を創造していくことを目指します。

- (1) 各学校では、調査結果から自校の課題を分析し、調査対象の学年だけではなく、学校全体で組織的に授業改善に努め、学力向上に取り組んでいます。

香芝市教育委員会では、児童生徒の学力向上に向け、管理職へのヒアリングを通して指導助言を継続して行うとともに、県立教育研究所が実施する「令和8年度学びを支える授業改善サポート事業」を活用して本市の児童生徒の実態や課題を把握し、それらに応じた授業及び指導方法の改善についての教職員研修を行っています。

- (2) 効果的にICT機器を用いて児童生徒にとってより楽しく、より分かりやすい学習となるような授業の創造ができるよう、各校のICT支援員とより密な連携を図り、教職員への研修を行っています。
- (3) 各校で読書習慣を定着させていくための環境整備を継続して行います。